

感情的になって、つい相手を責めたり攻撃したりすることはありませんか。その時、相手の人権はどこにいったのでしょうか。伝えなかった本当の思いは何だったのでしょうか。

「殺すぞ」。聞くに堪えないほどのどう喝発言。それは映画やドラマの中のセリフではなく、現実の職場内で録音されたものでした。

この発言は、ある大手中古販売店の事件をめぐるニュースの中で流れてきた部下のミスを上司が叱責する音声でした。この上司は、本当に部下を殺すつもりだったのでしょうか。そんなことはないと思いますが思っています。でも、どうしても上司は命を奪うような言葉を投げつけたのでしょうか。

一般的に、相手を肉体的・精神的に傷つける行為をハラスメント

といいます。職場で起こりやすいハラスメントには、パワハラやセクハラ、マタハラなどがあります。しかしながら、〇〇ハラスメントと呼ばれるものは、50種類以上あると言われている。この3種類以外にも職場で問題となるハラスメントは少なくないそうです。このような言動を引き起こす背景は、何なのでしょう。また、そのような言動が許されるのは、なぜなのでしょう。肩書きや立場の違いによる力関係や職場の風土が根底にあるからではないのでしょうか。

人権は、人が生まれながらに持っている、人間らしく生きられる権利のことです。日本国憲法にもあるように、人権は侵すことのできない永久の権利として保障されるべきものです。しかし、現実には学校でのいじめとなったり、職場でのパワハラ

発言につながったり、人権が無視されているケースはいくつも見られます。日頃から相手の立場に立って考える姿勢を忘れずにいたいものです。

